

平成25年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年10月4日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 クリーク・アンド・リバー社
コード番号 4763 URL <http://www.cri.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 井川 幸広
問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長 (氏名) 福田 浩幸

TEL 03-4550-0011

四半期報告書提出予定日 平成24年10月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年2月期第2四半期の連結業績(平成24年3月1日～平成24年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年2月期第2四半期	9,179	18.0	633	56.4	633	49.3	278	61.6
24年2月期第2四半期	7,782	15.1	404	241.4	424	236.8	172	969.9

(注) 包括利益 25年2月期第2四半期 332百万円 (37.5%) 24年2月期第2四半期 241百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年2月期第2四半期	1,291.38	—
24年2月期第2四半期	799.25	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年2月期第2四半期	7,099	3,899	49.2
24年2月期	5,957	3,613	54.6

(参考) 自己資本 25年2月期第2四半期 3,493百万円 24年2月期 3,255百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年2月期	—	0.00	—	200.00	200.00
25年2月期	—	0.00	—	—	—
25年2月期(予想)	—	—	—	200.00	200.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年 2月期の連結業績予想(平成24年 3月 1日～平成25年 2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,500	10.9	900	33.2	900	23.4	400	57.5	1,858.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ― 社 （社名） 、 除外 ― 社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

25年2月期2Q	226,090 株	24年2月期	226,090 株
----------	-----------	--------	-----------

② 期末自己株式数

25年2月期2Q	10,809 株	24年2月期	10,809 株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

25年2月期2Q	215,281 株	24年2月期2Q	215,281 株
----------	-----------	----------	-----------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）5ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	4
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	4
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	5
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	10
(3) 継続企業の前提に関する注記	11
(4) セグメント情報等	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、東日本大震災の復興需要等を背景として、緩やかな回復の動きが見られた一方で、電力供給問題や世界経済及びアジア諸国を取り巻く環境への先行き懸念等、依然として不透明な状況で推移いたしました。

このような環境の中、当社グループは「人の能力により社会に貢献する」ことを理念として掲げ、事業を運営してまいりました。当社グループのネットワークする、クリエイター、医師、ITエンジニア、弁護士、会計士等、専門的な知識を有するプロフェッショナルへのニーズは旺盛で、グループ全社にて売上高、営業利益、経常利益において増収増益を達成する等、事業が好調に推移いたしました。

これらの結果、当社グループの第2四半期連結累計期間の業績は、売上高9,179百万円（前年同期比118.0%）、営業利益633百万円（前年同期比156.4%）、経常利益633百万円（前年同期比149.3%）、四半期純利益278百万円（前年同期比161.6%）となり、全ての項目にて第2四半期連結累計期間において過去最高の業績となりました。

報告セグメントごとの業績は次のとおりであります。

① クリエイティブ分野（日本）

クリエイティブ分野（日本）は、グループの中核となる当社が、映像、ゲーム、Web・モバイル、広告・出版等のクリエイティブ領域で活躍するクリエイターを対象としたエージェンシー事業を展開しております。

映像・TV分野においては、TV番組の内制化傾向によるニーズ増加機会を捉え、当社独自のリクルーティングによる映像専門社員の活躍により、TV業界における存在感を高め、コアクライアントであるTV局の多様なニーズに対応しております。また、テレビ朝日が組成する製作委員会より劇場公開映画『少年H』の制作を受託しており、平成25年夏の公開予定に向け、順調に制作が進行しております。

ゲーム分野においては、コンシューマー、アミューズメント、ソーシャル分野のクリエイター需要増に対し、優秀なクリエイターの発掘、確保、育成に努めております。さらに、自社開発によるソーシャルゲームを3つのプラットフォームに対して配信し、平成24年8月末日において、10タイトルを運営しております。

一方、一般事業法人関連では、Webサイトを用いたプロモーション等の需要増に対応し、セミナー・イベントを通じたWebクリエイターの育成に努めるとともに、大手広告代理店等からの受注の増加が業績に寄与しております。

電子書籍関連においては、専用端末の発売を受け高まる市場環境を背景に、電子書籍化の制作受託からプラットフォームへの書籍の取次まで、多角的なサービスを展開し、業容の拡大をはかっております。

一方、アジアマーケットへの取組みとしては、日本、中国、台湾、韓国の出版社と出版物ライセンスを仲介する出版エージェンシー事業、北京視易購伝媒科技有限公司との業務提携によるTV通販事業を推進してまいりましたが、平成24年7月、新たに北京知行慧科教育科技有限公司と提携することにより、日本国内でのIT技術者不足解消を狙いとしたIT技術者育成・人材紹介事業を開始いたしました。

これらの結果、クリエイティブ分野（日本）は、売上高5,447百万円（前年同期比110.3%）となりました。

② クリエイティブ分野（韓国）

クリエイティブ分野（韓国）は、連結子会社CREEK & RIVER KOREA Co.,Ltd.が、クリエイティブ分野（日本）と同様のビジネスモデルを韓国にて展開しております。

韓国における既存のTV局での圧倒的なシェアを誇り、法改正によりTV局が新たに6局増加したことを背景とし、クリエイターの派遣事業が順調に伸張しております。また、77名のトップクリエイターネットワークを活かし、クリエイティブ分野（日本）と協同による出版エージェンシー事業を推進する等、収益の多様化をはかっております。

これらの結果、クリエイティブ分野（韓国）は、売上高1,087百万円（前年同期比110.7%）となりました。

③ 医療分野

医療分野は、連結子会社株式会社メディカル・プリンシプル社が、「民間医局」をコンセプトにドクター・エージェンシー事業を展開しております。

全国各地での慢性的な医師不足、地域的偏在、診療科の偏在を背景に、各医療機関からの医師へのニーズは高く、医師の紹介事業が順調に伸張しております。

臨床研修制度施行以来実施している業界最大の研修病院合同説明会「レジナビフェア」も開催10周年を迎え、全国の研修病院の約80%にあたる約850の医療機関と約6,000人の医学生・研修医を集める規模に到達し、医療分野の貴重なマッチングの機会として評価され、約60,000人の医師・研修医、8,000を超える医療機関が登録する国内最大のドクターネットワーク形成へと寄与しております。

これらの結果、医療分野は売上高1,238百万円（前年同期比110.4%）となりました。

④ その他の事業

I Tエンジニアのエージェンシー事業を展開する連結子会社株式会社リーディング・エッジ社では、業務支援開発案件の受託が売上高の拡大に寄与した一方、Android技術者の育成等により、市場ニーズに合わせたエンジニアの輩出に注力しております。

法曹分野のエージェンシー事業を展開する連結子会社株式会社C&Rリーガル・エージェンシー社は、弁護士の登録者数が4,750名に達し、弁護士の紹介事業が拡大しております。

会計分野のエージェンシー事業を展開する連結子会社ジャスネットコミュニケーションズ株式会社では、会計・経理人材の派遣・紹介事業が拡大しております。

法曹・会計分野においては、リーマンショックに端を発する進路未定の司法修習生、公認会計士試験合格者の増加が社会問題となっていることを背景とし、平成24年8月、法律・会計専門職大学院向けキャリア支援カリキュラムの提供を開始いたしました。

これらの結果、その他の事業は売上高1,406百万円（前年同期比189.7%）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末より1,096百万円増加し5,805百万円となりました。これは、主として現金及び預金の増加188百万円、受取手形及び売掛金の増加334百万円及び仕掛品の増加500百万円等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末より45百万円増加し1,293百万円となりました。これは、主として有形固定資産の減少21百万円、無形固定資産の減少43百万円、保険積立金の増加36百万円及び敷金保証金の増加63百万円等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末より854百万円増加し3,090百万円となりました。これは、主として営業未払金の増加79百万円、短期借入金の増加100百万円、前受金の増加469百万円及び預り金の増加215百万円等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末より2百万円増加し109百万円となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末より285百万円増加し3,899百万円となりました。これは、主として利益剰余金の増加234百万円及び少数株主持分の増加52百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、当社グループ全体での事業が好調に推移し、全セグメントにおいて前年を上回る業績を達成し、期初の計画を上回る見込みとなったため、通期の連結業績予想を修正いたしました。

詳細につきましては、平成24年9月27日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

① 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。

② 固定資産の減価償却費の算定方法

減価償却の方法として定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分する方法により算定しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

1 株当たり当期純利益に関する会計基準等の適用

第1四半期連結会計期間より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号 平成22年6月30日）及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日）を適用しております。

潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定にあたり、一定期間の勤務後に権利の行使が確定するストック・オプションについて、権利行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しております。

なお、この変更による影響はありません。

(4) 追加情報

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,465,442	2,653,568
受取手形及び売掛金	1,917,431	2,252,022
仕掛品	50,562	551,437
貯蔵品	1,840	1,598
その他	328,523	403,535
貸倒引当金	△54,413	△56,430
流動資産合計	4,709,386	5,805,733
固定資産		
有形固定資産	186,883	165,071
無形固定資産		
のれん	153,349	119,271
ソフトウェア	177,729	166,316
その他	3,215	5,471
無形固定資産合計	334,294	291,059
投資その他の資産		
敷金及び保証金	445,411	509,129
その他	291,931	340,526
貸倒引当金	△10,026	△12,153
投資その他の資産合計	727,316	837,503
固定資産合計	1,248,494	1,293,634
資産合計	5,957,881	7,099,367
負債の部		
流動負債		
営業未払金	753,058	832,952
短期借入金	350,000	450,000
1年内返済予定の長期借入金	48,800	15,200
未払法人税等	287,689	305,936
賞与引当金	79,378	118,571
保証履行引当金	3,966	12,076
その他	713,586	1,355,932
流動負債合計	2,236,479	3,090,669
固定負債		
退職給付引当金	102,535	106,035
その他	4,879	3,659
固定負債合計	107,414	109,694
負債合計	2,343,894	3,200,364

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,035,594	1,035,594
資本剰余金	1,874,684	1,874,684
利益剰余金	649,528	884,482
自己株式	△246,809	△246,809
株主資本合計	3,312,997	3,547,952
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,085	△1,618
為替換算調整勘定	△56,158	△53,293
その他の包括利益累計額合計	△57,244	△54,911
新株予約権	20,485	15,811
少数株主持分	337,747	390,152
純資産合計	3,613,986	3,899,003
負債純資産合計	5,957,881	7,099,367

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年3月1日 至 平成23年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)
売上高	7,782,448	9,179,600
売上原価	5,170,990	6,180,527
売上総利益	2,611,457	2,999,073
販売費及び一般管理費	2,206,556	2,365,763
営業利益	404,901	633,309
営業外収益		
受取利息	3,437	2,867
受取配当金	774	144
保険解約返戻金	19,424	740
受取手数料	1,103	—
その他	645	1,646
営業外収益合計	25,385	5,399
営業外費用		
支払利息	1,317	1,168
為替差損	562	188
持分法による投資損失	3,701	3,070
その他	246	426
営業外費用合計	5,828	4,853
経常利益	424,458	633,855
特別利益		
貸倒引当金戻入額	351	—
保証履行引当金戻入額	327	—
固定資産売却益	—	141
新株予約権戻入益	—	10,998
負ののれん発生益	19,199	—
特別利益合計	19,877	11,139
特別損失		
投資有価証券評価損	51,377	—
固定資産除却損	1,930	960
関係会社株式売却損	—	134
会員権評価損	—	800
事務所移転関連損失	2,540	31,190
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	1,770	—
特別損失合計	57,617	33,085
税金等調整前四半期純利益	386,718	611,909
法人税、住民税及び事業税	149,523	293,207
法人税等調整額	20,745	△11,644
法人税等合計	170,269	281,562
少数株主損益調整前四半期純利益	216,448	330,346
少数株主利益	44,386	52,336
四半期純利益	172,062	278,010

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年3月1日 至 平成23年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	216,448	330,346
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	19,554	△761
為替換算調整勘定	5,995	3,253
その他の包括利益合計	25,549	2,491
四半期包括利益	241,998	332,838
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	197,393	280,434
少数株主に係る四半期包括利益	44,604	52,404

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間（自 平成23年3月1日 至 平成23年8月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額
	クリエイティブ 分野 (日本)	クリエイティブ 分野 (韓国)	医療分野	計				
売上高								
外部顧客への売上高	4,937,109	982,196	1,121,735	7,041,041	741,407	7,782,448	—	7,782,448
セグメント間の内部 売上高又は振替高	19,495	343	413	20,251	44,994	65,245	(65,245)	—
計	4,956,604	982,539	1,122,148	7,061,292	786,401	7,847,694	(65,245)	7,782,448
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	218,810	13,339	206,045	438,195	△38,193	400,002	4,898	404,901

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、IT・法曹・会計他の事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額4,898千円は、セグメント間取引消去であります。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

「医療分野」において、平成23年8月22日付で連結子会社株式会社メディカル・プリンシプル社の株式を追加取得いたしました。これにより、負ののれん19,199千円が発生し、当第2四半期連結累計期間において特別利益（負ののれん発生益）に計上しております。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額
	クリエイティブ 分野（日本）	クリエイティブ 分野（韓国）	医療分野	計				
売上高								
外部顧客への売上高	5,447,528	1,087,610	1,238,064	7,773,204	1,406,396	9,179,600	—	9,179,600
セグメント間の内部 売上高又は振替高	18,741	—	—	18,741	35,468	54,210	(54,210)	—
計	5,466,270	1,087,610	1,238,064	7,791,946	1,441,864	9,233,810	(54,210)	9,179,600
セグメント利益	309,912	20,924	274,178	605,015	26,946	631,962	1,347	633,309

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、IT・法曹・会計他の事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額1,347千円は、セグメント間取引消去であります。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。